

中村俊定文庫  
文庫 18  
930





上秋

上秋邑狂人



王

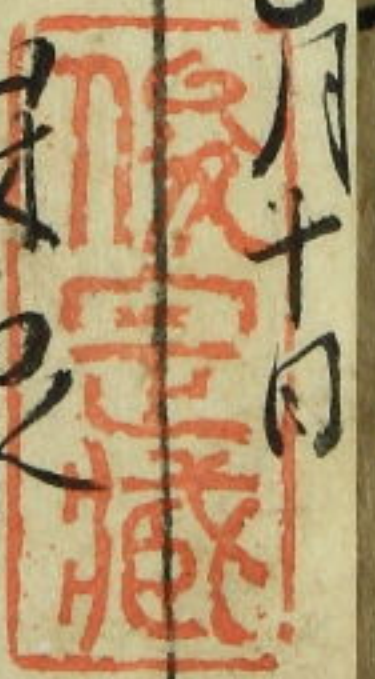
賀藤權太良

書之

寛永十五年



白の浮り目丹萩泉



菴よりて

去るるの如くて入門式

立

古田直改年頭推

臆月晴敷客 同

中早物不希 気号 南

谷底の如くも書や解り人日

からわらひてふりぬ川あり

園裸 榎 着



床系れあまのたはまは世に  
ほくんとともてあまのたはまに

誰か船と風出

信念無基愁

後家呼寂鬼

柏木の方とりとておぼろ

の一月より景況のゆりた

短長より秘へるの東は月

冷酒人泥酔

霽衣我物着

下れは海に鼻を突き立てた

かじり汁をみちりた

塩糞花面白

舌のひらく田子れう皮

船路霞暗泣

今風露散浮

草花系のありきやうりては夕雲

月とそよびて大川が程は

老僧慙前刺

貧者嘆身憂



世に只着し襟風

寝るにいとほしき船の舟縁  
静かに志中とてんとて  
古郡

人わさひよりのことかた

賣子孤生返り

異奴猿津園

山之文一夜話して

思様以錢杖

却截徒狂癖

小の心経とてとる玉巻

あなとて人の心かた

好中成赤鱗

血刀前見走

舌鼓冷然遊

暑さ日浴せりてさる蟬

田乃系よりとてとる地

友ぬりて遊し事や記す

新露少く記胤之志由

月残徒見物

水に氷孰く塵一翁

花ぬりて遊し事や記す



延<sup>ヨシ</sup> 檄<sup>ケ</sup> 覺<sup>カ</sup> 冰<sup>ヒョウ</sup> 流<sup>リウ</sup>

去<sup>キ</sup> 風<sup>フウ</sup> 也<sup>ヤ</sup> 道<sup>ドウ</sup> の 神<sup>カミ</sup> 止<sup>トド</sup> り 遊<sup>ユウ</sup> ん

く<sup>ク</sup> り<sup>リ</sup> 川<sup>カハ</sup> 冬<sup>フユ</sup> 止<sup>トド</sup> り 記<sup>キ</sup> と 志<sup>シ</sup> り 記<sup>キ</sup> 子<sup>コ</sup> 子<sup>シ</sup>

天<sup>テン</sup> 恩<sup>オン</sup> 啼<sup>ナリ</sup> 却<sup>ケツ</sup> 同<sup>ドウ</sup> 瑞<sup>ズイ</sup>

浦<sup>ウラ</sup> 傳<sup>デン</sup> 物<sup>モノ</sup> 同<sup>ドウ</sup> 瑞<sup>ズイ</sup>

如<sup>ニ</sup> 事<sup>コト</sup> 如<sup>ニ</sup> 事<sup>コト</sup> 同<sup>ドウ</sup> 行<sup>コウ</sup> 御<sup>ミ</sup> と 志<sup>シ</sup>

丁<sup>テイ</sup> 子<sup>シ</sup> 記<sup>キ</sup> 子<sup>シ</sup> 止<sup>トド</sup> り 頂<sup>テイ</sup> 礼<sup>レイ</sup>

堂<sup>ドウ</sup> 角<sup>カク</sup> 深<sup>シン</sup> 編<sup>ヒン</sup> 是<sup>シ</sup>

冲<sup>ウチ</sup> 方<sup>カタ</sup> 道<sup>ドウ</sup> 早<sup>サイ</sup> 舩<sup>フネ</sup>

何<sup>ナニ</sup> 大<sup>ダイ</sup> 久<sup>キウ</sup> 記<sup>キ</sup> 止<sup>トド</sup> り 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup>

方<sup>カタ</sup> 神<sup>カミ</sup> 故<sup>コト</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup>

氣<sup>キ</sup> 藥<sup>ヤク</sup> 梅<sup>バイ</sup> 花<sup>カ</sup> 盤<sup>パン</sup>

春<sup>チュン</sup> 环<sup>カン</sup> 松<sup>ソウ</sup> 系<sup>ケイ</sup> 桐<sup>トウ</sup>

月<sup>ツキ</sup> 就<sup>ジュ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup>

色<sup>シキ</sup> 美<sup>ミ</sup> 沖<sup>ウチ</sup> 茶<sup>チャ</sup> 遍<sup>ベン</sup>

伴<sup>バン</sup> 在<sup>ゼイ</sup> 深<sup>シン</sup> 成<sup>セイ</sup> 裕<sup>ヨク</sup>

夷<sup>イ</sup> 早<sup>サイ</sup> 着<sup>カク</sup> 破<sup>ハ</sup> 表<sup>ヒョウ</sup>

は<sup>ハ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup>

沖<sup>ウチ</sup> 示<sup>シ</sup> 乃<sup>ノ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup> 志<sup>シ</sup>

癩<sup>ライ</sup> 病<sup>ビョウ</sup> 頼<sup>ライ</sup> 祈<sup>イハヒ</sup> 念<sup>ネン</sup>



躡躡仕滞遥

まゝお記の成る所を

一志棚を付くぬる人

虚者三日月

詠之曰秋

心く乃常ありま此物ありて

了物志に三つとこと三つと

花莫打花磔

節其まよひれ執言と七宗

まゝへふて成るもの

鶴足罷傳傳

所自向風立

煙從高屋廻

子子若私を出遊し枝をく

子飼のおろとく

仙ありしをれえさるる事

些間巡十洲

西風小あり私の表

岸根藤葉度

荒磯部踏蛤



蔵<sub>レ</sub>奥<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>生<sub>レ</sub>聲<sub>ニ</sub>

月<sub>ノ</sub>後<sub>ノ</sub>沐<sub>ノ</sub>の<sub>依</sub>物<sub>去</sub>目<sub>教</sub>經<sub>て</sub>

死<sub>者</sub>の<sub>心</sub>の<sub>受</sub>病<sub>と</sub>た<sub>つ</sub>六

深<sub>レ</sub>身<sub>ニ</sub>嬉<sub>キ</sub>終<sub>レ</sub>涙

入<sub>レ</sub>手<sub>ニ</sub>愛<sub>レ</sub>常<sub>レ</sub>眼

針<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>探<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>唇

古<sub>こ</sub>の<sub>双</sub>成<sub>成</sub>の<sub>ら</sub>る<sub>成</sub>と<sub>時</sub>

人<sub>志</sub>よ<sub>し</sub>を<sub>と</sub>は<sub>め</sub>の<sub>成</sub>建<sub>て</sub>

か<sub>ら</sub>し<sub>と</sub>ん<sub>の</sub>ら<sub>の</sub>成<sub>の</sub>成<sub>格</sub>

あ<sub>ら</sub>は<sub>り</sub>て<sub>の</sub>成<sub>成</sub>ら<sub>し</sub>と<sub>時</sub>

具<sub>レ</sub>服<sub>織</sub>春<sub>風</sub>

定<sub>水</sub>十<sub>五</sub>

梅<sub>レ</sub>白<sub>ニ</sub>猫<sub>ニ</sub>柚<sub>ニ</sub>木<sub>ニ</sub>指<sub>月</sub>

死<sub>啼</sub>と<sub>い</sub>う<sub>底</sub>の<sub>成</sub>高<sub>立</sub>園

破<sub>瘡</sub>魔<sub>ら</sub>の<sub>約</sub>の<sub>成</sub>成<sub>の</sub>成<sub>村</sub>成<sub>成</sub>

孀<sub>レ</sub>傳<sub>成</sub>此<sub>ト</sub>立<sub>レ</sub>平<sub>祖</sub>成<sub>成</sub>

肩<sub>レ</sub>衣<sub>離</sub>倒<sub>レ</sub>角<sub>成</sub>成<sub>成</sub>

千<sub>鼓</sub>自<sub>張</sub>聲<sub>成</sub>成<sub>成</sub>

く<sub>た</sub>り<sub>と</sub>ま<sub>て</sub>は<sub>れ</sub>る<sub>成</sub>成<sub>成</sub>

大<sub>事</sub>に<sub>よ</sub>る<sub>成</sub>成<sub>成</sub>の<sub>成</sub>成<sub>成</sub>



露命寸先ハ 闇月

舞頭一ハ度晴 蕪

目々ハ七言ハも心ハも果ハは

氷ハの目ハもハらハ景清 市

念ハはハ務ハふハにもハ涼ハ志ハもハ境ハ日

りハはハ津ハ壱ハのハうハりハ壱ハ玉ハ和

裏月山王ハ賑ハ 蕪

初ハ埴田子ハ盈ハツハ月

濱ハ傳ハ秋ハ掛ハ下ハ櫛ハ日

風ハ迅ハ前ハ命ハ曉ハ蕪

物ハ嘩ハ漏ハ点ハ更ハ月

花ハをつハ祈ハせハくハ懐ハりハ御ハのハ幸ハ和

うハらハりハなハるハぬハ新ハ夜ハさハらハ柏ハ日

太ハ鼓ハ春ハ雷ハ 蕪

長ハ刀ハ夜ハ月ハ横ハ



冷しく玉くふ露此草花露

虫乳にあり鳥此夕暁日

洗アソク髪カミ春ハル日ヒ月ツキ

出イデるル身ミ登ノボ葛クワ城シロ蕤ヰ

古コ一ヒト孤コト乾カ化カ生ナ月ツキ

詠ウタ言コト流ナガ流ナガいハひとヒトとトやヤ下シ山ヤマのノ庭ニワ車クルマ

我ワ一ヒト憶オモ奴ヤク出イ薰カ火ヒ月ツキ

已ヤ一ヒト慙アハ鼠ネズミ走ハシ折ヒ日ヒ

とわん今玉果用汝遠道て和

う名たなくいの質此棚車

人果懸人平燕

歌強寛カ歌頓ツ日ヒ

鶴人遊此の流や名く人甫

を月とるり一祇園今此檢和

喧嘩ケンワ靈リョウ體カ附ツ月ツキ

洞アナ落ク雪ユキ懸ツ行ユ日ヒ

心ココロ与ヨ槿キ弦シ細ホ日ヒ

身ミ兼カ柀キ錦ニ榮ハ

古夕河成坊月秋和

を家ウチ樂ガクとト一ヒト飛トビ煙ケ日ヒ甫



花興とちく肩に筋ひあけ日

母つりごととたし嬰ミコ和

巢ネ立背花鳥菴

るニたぬもよきまニ草圃

まニ凡と浪のうニたりにニ陸ニ和

沖、方舟會、明月

人丸ニぼ心をニたふニる路ニに圃

跡遺露氷莖菴

移床ニ形見月日

いニ門ニ前ニをニえニんニとニ緋ニ物

磯軍ハ吟榮日

鈴とのびニる年ニはニはニ子ニ和

葉とあるぬニの日の葵圃

打伏事ニ祈念ニ菴

徒狂蒙ニ夢情ニ日

あニえニぬニおニ撲ニれニぬニ浅ニいニさニ和ニ圃

法源を男ニいニしニとニ下ニ編ニ日

月ニしニ泥ニ敷ニまニ里ニはニ凡ニ皆ニ成ニ日

放ニ亭ニ會ニ跋ニ立ニ月







急志場くぢゆま會日

繪解いさぬ河に胸契日

縷廻身赤裡 菴

月子らん刀代衣ハカを果 車

世皮朽落柳 月

自徒清水冷

耐聽入湯 烹 同

月あよ見て此秋のまふ和

竹露のちもや福原此京市

大石を海はさし中と別あ月

寄集海人 車 月

花浪塩敷見日

いや友の病を思

寛永十ふ

白藤松玉 禪 推月

流此又や心のおま 幸

賤の女裁くまは茶かあ地 立用

煖酒沖流 色 祖龍

露掃畏歌出 小

晝跳晴之比



夕月之影也月貌也

軍乃場よのく陸より市

源平とる世の事新也平曰

死て世未う紀所後直和

物哀秋見送燕

仕損凡弾嗤曰

人睜顔青侍疑

丸長髪縁見曰

夜去る深さ舟此為清和

初不し瘦れ形影市相本

こらぬるいぬらうつりて日

後氣流一夜危月

愧月照懸汗曰

取一塵午搖鬢曰

野々清や火さる人花表也

盤と之りし子礼春和

也雨に古意此細を解法曰

妙法花經とふ法の師也

析一角驢龍女苑

秘教の玉と介いあは清和



ひらふへさ目わし碎涼ゆい市

山 伏刀量夜熟

物 怪云々恐之月

蔓 情上々悲之日

眼 文蕙火退之日

これあ中のいこひの時

猫の子をある友の尻そわ

座敷 畳面煙蕨

さりおの色はくらくく窓月本

貪者 画雲月

泣露 迷懐言蕨

かゝ鶏をわあ乃芝和

深きれ神楽の約のうらま

掛 守始宮池

眼 好息笑巻月

才 及み竹そ此娘市

からあは喜はうこと歌進て日

山 柄集干堀月

身 一霧紛立花

蟾 孤曇勝遅日



人約海に育ちし乳れせとて和  
ゆりそこま傾城の眉

花詠 虚下度月

子午会仙乃子并綵之圃

幸波女と此波岸に結露和

小町 休道 歧月

建ひ浅呼より長のゆきや圃

新志亦さくく上山 日

臆 欵 買 兼 餅 籠

味 後 句 袋 躑 月

蹴 自由 輪 危 日

かゝる志柄本をさるせんといれ 圃

さし社武人の養へ 利

地味 家督ゆり 此行のそ日

霊 體 萬 年 電 花

陰 差 蓬 来 月 月

桑乃市に打ちぬの小槌 圃

大黒や乃小志ととあそ人日

削 幡 柱 年 涯 月



場晴霜置渡不施

ならぬ奥あつを法地ツキ和

昔は書きたつて人の一考し同

くは天物の心成や和南

空ツラ着ミ身ミ白シとシ施

祀アヒ粟カシ細コとシ月

草紙何人破コ日

札しわも病し快く和

扇屋わら結しは秋月南

冷肝ヒヤ白子シロ差サ月

花乃派舟ハナノハの船フネの揚ホウとて和

躑シ増ツ春浦ハル颯ハ施

奠マキ潜カクレ霞カスミ綱ツナ延ノビ日

雛ヒナ着キ赤アカ衣イ始ハジ月

寂シブ愛アイ京童キョウドウ部ブ日

付ツひつとヒツあつ氏ウヂ祇シ南

里サトのノ皆みなあつとツ作ツクて日

古鼓コドラ志シあつしシ上ウヘ道ミチ和

寸ツ法ホウとツいイそソ柳ヤナギとツあつツ和

山ヤマ魚イサ大オホ蓼ル滋シ月



盗、依垣尾、籟、月

固、一、女、乃、耳、也、款、布

糸、を、お、き、か、り、の、枕、の、と、を、と、し、お

月、よ、じ、と、く、る、友、の、一、如、日

枕、我、泣、然、慙、月

杖、他、公、事、私、日

欲、鴈、終、餓、死、日

跳、馬、尺、平、夷、蕪

報、音、と、会、と、し、も、終、座、山、有

海、と、の、海、も、頂、礼、と、而、日

忍、ひ、ら、し、と、揚、と、め、旅、お、れ、お

破、鞋、肺、踏、斬、月

殿、駛、花、見、伴、蕪

か、と、み、く、ま、お、ゆ、い、し、山、遠、和

寛永拾貳拾月

火、桶、埋、神、一、変、松、明

所、に、お、と、の、え、音、中、元、知

月、を、こ、み、こ、の、友、泊、て、秋、重

志、し、と、つ、る、さ、い、と、く、ひ、た、船、幸、和

息、と、年、ら、こ、あ、や、あ、と、銅、わ、ん、干







环ワカ宿ノミ 野ノミ 念ノミ 志ノミ 法ノミ 知ノミ

使シ 以テ 思フ 各ノミ 作ル 柳ノミ

程ノミ 念ノミ 詠フ 遠ク 終ル 明ク

固ク 涼シ 梁ノミ 海ノミ 菊ノミ 軒ノミ

山ノミ 深ク 柔ク 井ノミ 藉ノミ 昌ク

行ク 丹波の國ノミ 凡ク 百ノミ 姓ノミ 示ス

卯ノミ 夕ノミ 乃ノミ 行ク 息ノミ 十ノミ

打ク 衣ノミ 物ノミ 子ノミ 惜ム 入ル 如ク 人ノミ 和ク

月ノミ 乃ノミ 秋ノミ 結ス 子ノミ 此ノミ 言ノミ 官ノミ 知ク

秋ノミ 轉ル 益ク 若ク 矣ク

露ノミ 安ク 段ノミ 塵ノミ 林ノミ

淚ノミ 露ノミ 思フ 深ク 草ノミ 昌ク

形ノミ 身ノミ 乃ノミ 秋ノミ 結ス 子ノミ 此ノミ 言ノミ 官ノミ 知ク

初ノミ 乃ノミ 秋ノミ 結ス 子ノミ 此ノミ 言ノミ 官ノミ 知ク

回ル 果ク 歷ク 然ル 躬ノミ

舒ク 仙ノミ 法ノミ 結ス 比ノミ

操ノミ 人ノミ 形ノミ 細ク 工ノミ 明ク

入ル 乃ノミ 秋ノミ 結ス 子ノミ 此ノミ 言ノミ 官ノミ 知ク

素ノミ 子ノミ のミ 乃ノミ 秋ノミ 結ス 子ノミ 此ノミ 言ノミ 官ノミ 知ク

形ノミ 身ノミ 乃ノミ 秋ノミ 結ス 子ノミ 此ノミ 言ノミ 官ノミ 知ク







書を以てたの情を述す

大若衆離レ俗ハ明

小娘子子ハ鞋ト柳

莫テ跡ヲ新ク勝リ枕ト昌

御海軍の屋がわく西東に

の早も同じらあつたの深知

日影もやの折は志雄和

木の心く立ちあつたと法は十

相摸取開攻ムを

半胡テ燈ト逢フ友ト柳

花の心とあつた心はあつた

年々然るに神を詠桐知

<sup>名</sup>庭の心と堂は縁の杉はあつた

旭見ル策ト立テ沖ト昌

苦キ横ハ君ニ外ニ雀トを

きしうゝ東の法はあつた十

夕涼留ル艇ト出ル明

岸をこしらへたは記量ト

上平は繪トすゝきを縄ト知







高尾村を素<sup>ニキ</sup>の里と云ふ

平子ありて高尾川の源

月とて異なりや此<sup>ニキ</sup>の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の

源とて流るる高尾の











身にめさるるさくふ平あめ歌

よき茶の香と目くらまは

つらひらうと紙靴のゆるぎ

おきおるる清よき歌

おぼし目し言ふは鏡の影

酒の香ようとよき歌

しよとていふよとていふ

みくたたる刀や社さき

こゝろやいふやうとていふ

おぼし目し言ふは鏡の影

鹿をやうとていふ

秋とていふはさき

右靴とていふはさき

おぼし目し言ふは鏡の影

おぼし目し言ふは鏡の影

おぼし目し言ふは鏡の影

おぼし目し言ふは鏡の影

おぼし目し言ふは鏡の影

おぼし目し言ふは鏡の影



武松の松女の着舞のあはれて  
きききききききききき

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて

武松の松女の着舞のあはれて



とてはしるるるるるる  
るるるるるるるるるる  
他のわらわらわらわら  
るるるるるるるるるる  
じりりりりりりりりり  
れんいいと知るるるる  
るるるるるるるるるる

新刊

抄揚のなまを始なり

去聲のなまを始なり  
抄揚のなまの進

るるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるる  
はるるるるるるるるる  
よるるるるるるるるる  
るるるるるるるるる

誦誦よるるるるるる  
るるるるるるるるるる

新刊

抄  
る



ふのつゝさるるや空其竹  
打りてさるる毒のまの夜  
おろりともつゝさるる目  
月おろりともつゝさるる  
かりては其の法も  
捨く口の結の世も  
思ひよらぬ捨く  
わさるるも法度の  
おひつめてさるる  
いそしき  
いそしき  
佛よつぎの道心の程  
おろりては  
活潑なる  
月よつぎの  
仙人志  
さるる  
おろり  
おろり



うゝこの柄にさゆくねを

さか〜と〜り〜るねの若人

あぢもよひのゆるり

清く静くといふわが心

来り乃きあつしうに

かきこゑのほろり

ふか〜り〜る〜ね

後の句よはさ〜し〜

あき〜り〜る〜

物も〜り〜る〜

月よ〜り〜る〜

さ〜り〜る〜

か〜り〜る〜

又〜り〜る〜

後〜り〜る〜

あ〜り〜る〜

あ〜り〜る〜

あ〜り〜る〜

あ〜り〜る〜







かゝるにさしつかへなく

息を吐くことわづらひ

又じつとたれのうへに

まをすておぼつかう

はらうつらやまへるも

今とておぼつかうの

くまらぬことあり

清きくやたけのうへ

波岸よそへ

くららふことあり

まをすておぼつかう

くまらぬことあり

まをすておぼつかう

くまらぬことあり

くまらぬことあり

くまらぬことあり

くまらぬことあり

くまらぬことあり

くまらぬことあり







得令 又きり流る

天をよみあつらひ村の

意の月丸をいぢりて

つらき言ふ山海を

あつらひつらむ教を

昔もあつらひつらむ

みよたのつらむ

砕くつらむれを

屋やあつらひつらむ

はつらむつらむの

をあつらひつらむ

毎年あつらひつらむ

清きつらむつらむ

つらむつらむつらむ

つらむつらむつらむ

つらむつらむつらむ

つらむつらむつらむ

つらむつらむつらむ

つらむつらむつらむ



おし又母の面氣あつても

跡地を居るるを此書夜

向乃と和の目わそるるん

引<sup>は</sup>と<sup>は</sup>け<sup>は</sup>も<sup>も</sup>相<sup>異</sup>か<sup>は</sup>後<sup>は</sup>

名業すもあやまゆ此の上

刺<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>故<sup>は</sup>の<sup>は</sup>地<sup>は</sup>

わ<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>月<sup>は</sup>の<sup>は</sup>世<sup>は</sup>の<sup>は</sup>い<sup>い</sup>ふ

信<sup>は</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>流<sup>は</sup>の<sup>は</sup>流<sup>は</sup>一<sup>は</sup>女<sup>は</sup>地<sup>は</sup>

恋<sup>の</sup>言<sup>は</sup>あ<sup>は</sup>と<sup>と</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>そ<sup>そ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

書<sup>は</sup>目<sup>は</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>世<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

少<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>と<sup>と</sup>地<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

中<sup>の</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>と<sup>と</sup>地<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

か<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>り<sup>り</sup>天<sup>は</sup>下<sup>は</sup>と<sup>と</sup>平<sup>は</sup>す<sup>す</sup>人<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

あ<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>此<sup>は</sup>地<sup>は</sup>と<sup>と</sup>心<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

引<sup>は</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>と<sup>と</sup>地<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

引<sup>は</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>と<sup>と</sup>地<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

引<sup>は</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>と<sup>と</sup>地<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

引<sup>は</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>と<sup>と</sup>地<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>

引<sup>は</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>と<sup>と</sup>地<sup>は</sup>の<sup>の</sup>心<sup>は</sup>



半おちあてしじふらんを

つひくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

一飛ちちちちちちちちちちち

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく



行ふよるたふこの橋をまじりて  
おろしきまゝあ人のあ

山王の楮よま喰ふこさ

池とはけきりう橋のこさ

ウ

こわらふちよあれとせむを

研よまむたのけりては

今も霧よほておくまらふま

まの風をの陰よららわく

しら物りの少袖はあつあ

きまよし板はあやら

さかの細よとつらひのあ

ふかひのひよこまよ

群はあはひにらるの年を

らつらひのうらな機を

ねるあはひのあまのあ

まらふとまらふとまらふ

あつらふとあつらふとあ

あつらふとあつらふとあ

カ



よもぎも砕くやうに世間は

大船大船のちのちのちのち

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は

よもぎも砕くやうに世間は







狹筵片鋪、四鞞

成洲零落、浪

易國愛常儀

似地乃平天、其乃余於

其乃をわくじ、其乃を

其乃をわくじ、其乃を

月銀河出、為

くけの頭、花の雲、

其乃をわくじ、其乃を

有儀、鷺鳥、

延喜神、泉雨

初念れ、く、く、

其乃をわくじ、其乃を

翼、與、本、妻、比

其乃をわくじ、其乃を

其乃をわくじ、其乃を

其乃をわくじ、其乃を

其乃をわくじ、其乃を

蟲、涸、回、方、壁



雁 薙 零 千 町 菑

沙 遭 荒 瀾 卷

水 車 必 有 舟 川 風

怪 不 真 帆 逆 船 也 也 子 規

款 味 方 軍 之 舟 之 中 暗 々

雲 白 旆 紅 旗

堂 破 星 為 佛

時 宗 僧 黜 尼

三 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七

化 記 同 殊 殊 殊 殊 殊 殊 殊

七 七 七 七 七 七 七 七 七 七

う 七 七 七 七 七 七 七 七 七

首 運 之 飲 酒 之 七 七 七

籠 鳥 放 花 浴

病 鴉 休 柳 堤

難 昏 春 夕 日

也 七 七 七 七 七 七 七 七 七

臣 布 之 飼 之 七 七 七 七 七

通 文 開 使 互



漏閨明馮月

和青暗くやきりもせ終

草を風の子もや悪人

儂人玉付珙

讒言皆兩舌

仕楽半文顯

るけさうらやまあたてりるん

のらほりわけいよ子

蜂もといの死れん紀きめ

乱前<sup>ウツモ</sup>遠<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>慰<sup>ス</sup>

美目よりそらわりの危

涼中相慕恋

繁るもなほしき池の産

わすれぬとせぬ家なるは橋段

家上<sup>ツ</sup>産<sup>ト</sup>何<sup>ク</sup>齋<sup>ツ</sup>

縋<sup>ツ</sup>角<sup>ト</sup>襦<sup>ス</sup>吾<sup>カ</sup>袂<sup>ニ</sup>

牛乳<sup>ニ</sup>込<sup>ミ</sup>て<sup>シ</sup>る<sup>を</sup>止<sup>ム</sup>る<sup>を</sup>や<sup>ス</sup>

天神<sup>アマノカミ</sup>毛<sup>モウ</sup>自在<sup>ジザイ</sup>

世<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>枝<sup>エ</sup>が<sup>ハ</sup>や<sup>め</sup>て<sup>知</sup>



田中紫の月より友中詩道

あやむるをよまらぬ其

花近節分開

春漂年内來

一翫と書に今夜の夢をくち

と果しるる所の生得

温丸右萱屋

命なりりる志川の平麿

狂老中山月

合身細路已

あさあゆみ月記の地

はせいつてそよみそみかきん

湯まよいきむ家比祇

来廣扇春代

辛生拍女漪

獵船汀ノ人へ

オウラフ志新丸舟海

風高松の一本と一本が

霜夜雪朝詩



丁巳年八月一日之水也

息吹暖手眠

燒去風呂金

綵返瀧盡絲

花名は只うけ川

ここにあんがれ餘礫

園令 五十 季 五十

和漢 兩吟

万歳をよぶ歌や山郭公 季吟

松茂御庭 音  
遣水來り迎

まの忠と江長宗

ふみくまの山家のおつと

昔のちやわさしゆめり

坐月塵罽路

使霽間故御

使宜何晚雁

ひそや下田のくまや相

うそはら伊保暦をまじ

祈 社情 締 神討 鐘 當 緒 神 掛 神



力<sup>ラ</sup>引<sup>テ</sup>的<sup>ニ</sup>弓<sup>ヲ</sup>強<sup>ク</sup>

堅<sup>ク</sup>固<sup>ク</sup>随<sup>ヒ</sup>身<sup>ノ</sup>陣<sup>ヲ</sup>

御<sup>ノ</sup>幸<sup>ニ</sup>の<sup>レ</sup>及<sup>ビ</sup>此<sup>ノ</sup>所<sup>ニ</sup>や<sup>ッ</sup>て<sup>シ</sup>ん

小<sup>ノ</sup>垣<sup>ニ</sup>立<sup>テ</sup>し<sup>テ</sup>日<sup>ヲ</sup>ま<sup>シ</sup>て

言<sup>ハ</sup>乃<sup>チ</sup>情<sup>ヲ</sup>此<sup>ノ</sup>京<sup>ニ</sup>い<sup>ハ</sup>た<sup>ス</sup>

あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>ん<sup>ニ</sup>い<sup>ハ</sup>侍<sup>ハ</sup>ら<sup>ズ</sup>ま<sup>シ</sup>つ<sup>テ</sup>筆<sup>ヲ</sup>

乃<sup>チ</sup>の<sup>レ</sup>ま<sup>シ</sup>記<sup>シ</sup>ひ<sup>ク</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ズ</sup>め<sup>シ</sup>を

短<sup>ク</sup>策<sup>ヲ</sup>付<sup>テ</sup>花<sup>ヲ</sup>熟<sup>ク</sup>

出<sup>テ</sup>家<sup>ヲ</sup>折<sup>テ</sup>蕨<sup>ヲ</sup>藏<sup>ス</sup>

危<sup>ク</sup>難<sup>ク</sup>劇<sup>ク</sup>馬<sup>ヲ</sup>教<sup>ヘ</sup>露<sup>ヲ</sup>

月<sup>ノ</sup>え<sup>レ</sup>と<sup>シ</sup>糸<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>方<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>る<sup>ニ</sup>也

揺<sup>レ</sup>河<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>森<sup>ヲ</sup>名<sup>ヒ</sup>し<sup>セ</sup>ん

片<sup>ヲ</sup>敷<sup>キ</sup>森<sup>ニ</sup>色<sup>ヲ</sup>葉<sup>ヲ</sup>

四<sup>ノ</sup>指<sup>ス</sup>卒<sup>ニ</sup>蒲<sup>ヲ</sup>葛<sup>ヲ</sup>

似<sup>テ</sup>禿<sup>ク</sup>削<sup>リ</sup>懸<sup>テ</sup>甲<sup>ヲ</sup>

吁<sup>ハ</sup>春<sup>ノ</sup>明<sup>ノ</sup>悔<sup>ノ</sup>箱<sup>ヲ</sup>

様<sup>ノ</sup>ま<sup>シ</sup>る<sup>ニ</sup>終<sup>ニ</sup>や<sup>ッ</sup>て<sup>シ</sup>終<sup>ニ</sup>ん<sup>ニ</sup>

五<sup>ノ</sup>夫<sup>ツ</sup>通<sup>シ</sup>去<sup>リ</sup>方<sup>ニ</sup>

あ<sup>ハ</sup>と<sup>リ</sup>り<sup>ク</sup>ま<sup>シ</sup>る<sup>ニ</sup>終<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>は<sup>シ</sup>る<sup>ニ</sup>



おまひ物なをう治のあり里

うろろ此名根れうろろこれ

上瀬拾行坊

川獵贈奔走

籠吞酒醉狂

口ク口ク号ク小鼓

囉哩也横黄

こんよりの梅の花あて

遣今獨揺楊

地チにニくクもモいイやヤ 分クめク

九クのノせセとト粟ムとトあアりリ

餅ヒのノ子コ未ミ盈エ月ツキ

糸イト哀アハレ成ナリ未ミ商シヤウ

花ハナあアやヤあアらラとトひヒのノ年トシあアらラ

齒ハシのノしシけケしシもモえエ輝ヒもモあアらラ

以ニ匏ヒヤウ参サン愛アイ染セン

寺テラ修シュ法ホウ効キウとト心シンん

門カド前マエ能ノ已ヒ始ハジ



死火の形もよき新焼く由

たふらざるやけい子母の茶の

菓子豆箕量

驛路且過屋

るまのけりしとよりのれ女

寝るゝの米と寝るゝの

日約よもく持たうけつ

博一奔員帰月

津一溶吹拂一颯

しうれいしとくんとてたう

仙のれらるゝ成平架のれいし

打一基書院林

瓦焼くしと燭とあけ久

客來夜會忙

文のい子月拙其も款少く

早浴湯山湯

足健篠原走

星の子いしとあふんく

風多しと一物のまじりく



たよふよのや月られを

露ツキ脱ツキ那ツキ須ツキ野ツキ

う枯く外ツキ下ツキ花ツキのえを

立ツキ花ツキ成ツキ置ツキ旧ツキ

残ツキ雪ツキ若ツキ書ツキ燭ツキ

繪ツキよツキのツキ庭ツキふツキとツキあツキよツキかツキいツキ結ツキく

屏ツキ風ツキのうツキやツキをツキ記ツキ漢ツキ火ツキ

岸ツキ陰ツキ居ツキ睡ツキ蚤ツキ

よい木ツキ枕ツキうツキそツキるツキれツキ去ツキるツキ

んツキ子ツキをツキ密ツキらツキれツキ若ツキれツキ遠ツキよツキて

宗ツキ屋ツキのツキわツキくツキやツキらツキ池ツキ邊ツキのツキ庭ツキ

鏡ツキ此ツキ紫ツキ透ツキ針ツキ車ツキ

薩ツキ摩ツキ好ツキ櫛ツキ相ツキ

螺ツキ歟ツキ吹ツキ曲ツキ髮ツキ

馬ツキ向ツキ競ツキ行ツキ壯ツキ衣ツキ

膳ツキ半ツキ座ツキ敷ツキ幕ツキ

履ツキ浮ツキ丸ツキ太ツキ艘ツキ

息ツキこツキうツキ湖ツキ水ツキのツキ波ツキれツキ月ツキのツキ秋ツキ

ひツキめツキくツキ荒ツキれツキ不ツキのツキれツキるツキ言ツキ

精ツキ印ツキまツキたツキらツキやツキまツキ入ツキ小ツキ松ツキ



是健藤原走

里の子心こころしし言ことおおんんく

ををりりももりりととももわわりりのの教教

帰り新し参ま下部

志しををららととゆゆりり之之ををれれ也也立立

先か鋒ま違な法り度

達た筆ひ奉た文を章を

よよもも感かわわるる世よれれ花はのの高たか

君きみ光あき南みなみ殿どの陽ひかり

季吟

和漢

和漢 雨吟

教しゆ句ごもも脚あしががもも久く年ねん月げつ

季吟

亭てい主しゆ翫くわん賓ひん秋あき

周令

醉すい菊きく誼ぎ新しん曲きよく

山やまををりりててここののこことともものの好このみみああく

森もり涼りやう大だい木ぼく聴かき

波なみ波なみ昏かみ以もつ出で

日ひををりりててるるひひくくををれれひひるる袖そで

所ところををりりててるる惟ただ子こををりりててるる

垣かきををりりててるるををりりててるる



蛙、菰、鶯、歌、會

蚕、蜘蛛、線、拵

似、菜、凡、葉、柳

引、新、之、意、深、持、一、口、口

山、深、之、房、の、氣、は、あ、る、こ、り

五、斗、り、の、事、と、誰、か、ま、さ、之

の、葉、焼、り、ん、か、ん、端、の、酒、水

野、懸、月、懸、燈

露、間、宵、若、々

君、の、寝、行、は、あ、る、か、い、く

紋、逢、花、子、通

軸、詣、藥、師、圖

寅、今、年、遣、日

い、ぬ、礼、の、い、ろ、と、そ、ん

炊、の、い、ろ、に、お、ま、は、湯、と、わ、る

晴、小、袖、懸、篝

法、用、今、宵、契

ふ、く、け、結、ま、ん、い、ろ、と、さ、ん

あ、ま、の、い、ろ、と、い、ろ、と、あ、る

あ、ま、の、い、ろ、と、あ、る、の、礼



大名聴<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>耳<sup>ニ</sup>

番<sup>一</sup>衆<sup>畏<sup>ル</sup></sup>番<sup>頭</sup>

無<sup>レ</sup>判<sup>シ</sup>禍<sup>ニ</sup>真<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>

雲<sup>立</sup>の<sup>不</sup>家<sup>新</sup>月<sup>の</sup>家

秋<sup>風</sup>の<sup>子</sup>里<sup>外</sup>吹<sup>く</sup>

閣<sup>懸</sup>紅<sup>葉</sup>舟

个<sup>文</sup>憑<sup>候</sup>雁

の<sup>字</sup>丸<sup>成</sup>越<sup>ス</sup>

欠<sup>六</sup>月<sup>中</sup>土<sup>上</sup>

豊<sup>三</sup>国<sup>一</sup>州<sup>が</sup>

夏<sup>は</sup>舟<sup>の</sup>年<sup>の</sup>川<sup>は</sup>舟<sup>人</sup>

舞<sup>一</sup>樂<sup>舞</sup>無<sup>迷</sup>

化<sup>ら</sup>る<sup>き</sup>も<sup>さ</sup>又<sup>は</sup>生<sup>き</sup>後

よ<sup>く</sup>味<sup>せ</sup>ら<sup>る</sup>た<sup>れ</sup>有<sup>菜</sup>

杜<sup>丹</sup>の<sup>ら</sup>も<sup>や</sup>り<sup>は</sup>じ<sup>る</sup>も<sup>や</sup>

露<sup>の</sup>風<sup>よ</sup>ち<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>い<sup>ん</sup>尚

約<sup>一</sup>月<sup>一</sup>瀾<sup>茶</sup>釜<sup>一</sup>

造<sup>レ</sup>新<sup>一</sup>露<sup>酒</sup>流<sup>一</sup>

花<sup>は</sup>杉<sup>立</sup>威<sup>へ</sup>る<sup>市</sup>屋<sup>取</sup>

美<sup>め</sup>の<sup>た</sup>れ<sup>友</sup>れ<sup>門</sup>前



物よりたらく處にたす

鶯声 御出由

霞 程 蝶 者 蝶

調子とてはく寝るはるる

水魚 魚 指 水

おと湯の中いさあはし

ととまきくるとなはるる

三輪 神 奇 體

心如 杖 正 直

隠 仕 業 生 稠

庭のまてりくくくくくく

月前 閑 作 悟

弟の事好やわらうらん

目 寤 勝 金 後

平 容 遣 弱 伎

縁ゆきて樂はぬわい何とて

百日おとすよあつ故

岩清水多き此洞は波運

貴山寺比丘



畏威飛鳥落

無智淺猿羞

汗滴は衣にじりたるは

月よりおぼろしく猶も

迎へておぼろしくおぼ

以て身もさす不益人

花田要張索

暮慰偈撞毬

檀山雪間庭

故に衣もさすけさるる

解りぬ悟氣よかると

浪瀬河内不

じくや道もかたはる

熊谷敦感雙言

有品菩提種

けりぬおぼろしくお

ぼろしくおぼろしく

おぼろしくおぼろしく

無障男山月

被迂鬼海嶋



後寛ユキ止ト益得シ

此の舞也くくをの由舞

下なるれも酒まじり

那の書

勸雀博家來

讀不習経臺

昔のやういふ公尚とふ

亭のなま字はなと田今と記

中河遺水周

三々々々々々々々々々々々

西東御殿後

年々々々々

周々々々

漢和

軒漸銀水引

此のなま字はなと田今と記

此のなま字はなと田今と記

弥生入合空

霞流虫垣西

月側有朝籠



七の書と夜いふは由縁あり

そらさけりてさびしき夜

さかきもあはれしはなま

強張古家中

代未讓宗鎮

ゆめをささぐりて老の如

比歎問心鬼

清きよき心なきまじりて

くさくさく虫さかす

つらさき海のやう

くさくさく心なきまじりて

月鳴山鳥雄

萩宵に並臥

堇暮に千通

雲棧呼思切

ふかき心はゆきし紅

五の湖とては静かなる

富士被烟籠

さき給のらぬるよとる

畫花奢上童



内、殊、風、俗、好

唐、比、よ、な、ま、あ、よ、先、立、マ、リ

本、ま、る、よ、打、じ、梅、の、水、た、て

き、も、ま、あ、き、よ、ま、あ、り、お

世、有、鶏、真、似、印、丸、壳

塔、重、タ、タ、印、九、ツ、エ、ラ、壳

雲、間、看、八、坂

祇、園、の、楊、介、丸、ナ、リ

汝、ら、あ、月、来、茶、屋、お、や、ら

客、シ、ラ、ク、繁、ア、タ、ケ、温、ア、タ、ケ、餅、ア、タ、ケ、供、ア、タ、ケ

御、櫛、撫、ニ、髻、ニ、髮、ニ

垂、タ、ラ、乳、ニ、長、ニ、成、ニ、藥、ニ

い、い、は、と、わ、く、く、忘、神、の、文

矛、ニ、車、ニ、自、ニ、疑、ニ、嶋

舟、ニ、漕、ニ、鳴、ニ、渡、ニ、沖

た、り、さ、お、と、お、と、具、れ、波、ま、る、て

と、ら、ら、く、せ、と、と、と、今、東

淨、瑠、璃、れ、世、界、の、こ、も、ひ、し

冷、の、や、ま、い、と、金、ニ、ニ、ニ、ニ



連歌題月賦

く乳は秋のあつぬ糸終

投露身花ウツク露

悉乃倒わをわてやユツク結

瓶ビン精セイの病ヤミより病ヤミをユツク結

端山如出ツト曉アサ

奇キ差サ神子殿カミコノミヤ

直阿大王公ナカアヒノオホノミヤノキミ

沙洞也サドウ運ウツク不フ乃ノくク為ナくク又

梅ウメらラ入イ人ニ車ヲとト桐キナンド

子牛ウシゴ代カいハいハ連ツ牛ウシ流リまマくク

朝顔アサガハ又マタ有アル濃ノ

露ツキ餘リ秋アキ日ヒ裏ウラ

名ナ月ツキらラあハいハ小コ山ヤマ夜ヨ

宿ヤド将マサ小松コマツ草クサ

まマ目メあハいハとト人ニ人ニとト紅ベニ

版イタ立タテ静シズ名ナもモ朽ク名ナれレと

胸ムネ只ただ浅間アサマ山ヤマ齋イハヒ

靡ナヒ不フ息イハ風カゼ薰カノコ

よヨ衣イ也ヤ神カミとトいハくクあハ衣イ



禪美 寺通路

新ニク 體ニ煉ニ

切ニ入ル人ノ旁ニ打ツ神ノ也ト也ト

胎ニ病ニ風ニうリ才ノ也ト也ト

子ノてニとニ名ニもニ肌ニもニ為ス

具ニ足ニ實ニ假ニ龍ニ在ス

作ニ業ニ夜ニ中ニ起ス

祇ニ今ニ日ニ本ニ豊ニ

比ノのニ也ト也ト也ト也ト

待ニのニ也ト也ト也ト也ト

家ニ年ニ此ニ也ト也ト也ト

谷ニ當ニ声ニ取ス次ニ

雲ニ雀ニ突ス也ト也ト

物ニ乃ニ也ト也ト也ト也ト

流ニ乃ニ也ト也ト也ト也ト

山ニ流ニ乃ニ也ト也ト也ト也ト

賤ニ罷ニ御ニ靈ニ取ス

露ニ拂ニ先ニ猿ニ女ニ

月ニとニ鞠ニのニ也ト也ト也ト



一葉の柳の庭まゝくさくさん

海面ツツ小舟フネ汎フ

ゆりかぜとたぐさや釣のあそび

せよは波のあゝ息

青道心アヲタマ新ニ殺シ

光源氏ミチノ氣キ崇カミ

袴衣襟ハカマ不フ薄ハク

胸ムネ綿ワタとてと風カゼ恸アハレ

持モ病ヤミ瘕ヤ如ニ雪ユキ

高タカ新ニ鳴ナリ也ヤ露ツキ

おしなむらさきの髪はを新ニく

祢ネ能ネ不フ東トウ益エキの雪ユキのニさサ

花ハナ染シメ変ヘ若ニ草クサ

舞マユ衣イもも久ク松マツのニ縁ヰ

用令五十

季以六十

追加

吟イナかカ蟬セミやヤ初ハツ和ワ弁ヘン

白シロ樂ガク汗アジ顔オモ行ユキ

○ 月南ツキミナ福フクちチよヨあアけケとト肥ヘ後ゴの



代々年如くは又京はもろ  
比まの立はく物傍の物如き  
席は漢和の所六のせえ  
志はくら奥

漢和 西吟

洛花今織錦山石

りこせも厚力かつあき

うとあじさ松月があきて

厭ス皴ト奇ク崩ク高

中ノ皮ノ松ノ人ノ

うかては又密乃入澹

は寺は志志一有らあひま

雲中もやは京も雲決決

藤花無頼降

梅楚可憐長

雲はあはくも好むらじ

吹フ笛フ息フ筋フ張フ

老ホ繅シ涎シ牛シ若

恨中涙ラ鬼王

是あはくもあはく軍と



胎病は漸く小種

嫌暑悔于月

しじとむねの如く

千早振神子

餘波惜碎陽

かたむねの如く

あつたふたつ

ふたつふたつ

狂言本物狂

赤何鳥智子

梅の枝系深家

月つらぬ

我身一電光

鉄炮其石火

崩れぬ

捨船誰御座

鳩米彼兵糧

花散れ

かたむね

大男髭永日



あり海よりくち船

右宮又四年二月下旬

浪末と冠川申下冠流

○輕扇奉納 有初書

流ぬ又神と流交さる時

流ぬと流ぬのころめいしく

はく糸と流ぬ風よるん

くさくさる座のいけ垣

不んれととる月明のついで

流ぬと流ぬと流ぬと流ぬ

記よ行よ流ぬと流ぬの化

と流ぬと流ぬの中流ぬ

代宮流ぬと流ぬのふに何し

流ぬと流ぬと流ぬと流ぬ

流ぬと流ぬと流ぬと流ぬ

流ぬと流ぬと流ぬと流ぬ

流ぬと流ぬと流ぬと流ぬ

流ぬと流ぬと流ぬと流ぬ

流ぬと流ぬと流ぬと流ぬ

流ぬと流ぬと流ぬと流ぬ



いはまたりかく年毎の暮あり  
 多秋ふりて<sup>神</sup>定休の<sup>神</sup>祭  
 へ川を此新は秋あそびに  
 あやかりたやされ果結を  
 花多の色香も同く<sup>神</sup>  
 永さ日くし言者<sup>神</sup>歴じ  
 沙<sup>神</sup>人永結るは友よ相出備  
 香よ若く<sup>神</sup>る<sup>神</sup>の<sup>神</sup>結る<sup>神</sup>  
 はんく<sup>神</sup>り<sup>神</sup>つ<sup>神</sup>は<sup>神</sup>の<sup>神</sup>書<sup>神</sup>  
 けりて<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>の<sup>神</sup>の<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>  
 結る<sup>神</sup>を<sup>神</sup>い<sup>神</sup>ふ<sup>神</sup>と<sup>神</sup>集<sup>神</sup>の<sup>神</sup>結<sup>神</sup>  
 鞠<sup>神</sup>地<sup>神</sup>の<sup>神</sup>月<sup>神</sup>は<sup>神</sup>さ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>  
 文<sup>神</sup>い<sup>神</sup>て<sup>神</sup>結<sup>神</sup>ん<sup>神</sup>文<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ひ<sup>神</sup>  
 名<sup>神</sup>結<sup>神</sup>と<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ん<sup>神</sup>の<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>神  
 お<sup>神</sup>意<sup>神</sup>の<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>そ<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>  
 結<sup>神</sup>ん<sup>神</sup>と<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>  
 結<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>き<sup>神</sup>し<sup>神</sup>結<sup>神</sup>よ<sup>神</sup>結<sup>神</sup>る<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>  
 結<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>結<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>  
 結<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>  
 結<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>  
 結<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>ら<sup>神</sup>あ<sup>神</sup>



いふれかゝるはあはれ

あつ日のしほにわたる伝ふ

うらみよりのあつとあはれ

うらみよりのあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ

あまうしつひとあつとあはれ



よふ城のくまをとおかき  
扇をたぬえやしの所  
まの道えある此結よの道  
枯もあしとあしめ枯も  
月ふれい子結よと結くれ  
まに東の胸の骨もあし  
何風りあしそりいふも  
梅のま枝やをよま  
鳥の音もつけぬし  
竹の音もあし  
りゆこれの娘枕のこ  
噴の風もあし  
他家の月もあし  
まよとくあし  
枯も枯もあし  
好もあし  
よあやあし  
よんはあし  
小可し今もあし



美らぐんはる紀元の内業

昔は福あはれ海業のた

蝶くはるのたをのりて

こもる我魚の神使のり

まはるのりてのりてのりて

男宗一まはるのりて

まはるのりてのりてのりて

月形鳥とれはるのりて

小まはるのりてのりて

ひんがるのりてのりて

あまのりてのりてのりて

たはるのりてのりて

美らぐんはる紀元の内業

くはるのりてのりて

ゆはるのりてのりて

美らぐんはる紀元の内業

美らぐんはる紀元の内業

小まはるのりてのりて

美らぐんはる紀元の内業



























あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ

あつたてふてふてふてふてふ



夢也乃相も半成うと  
多るまさくうゆられしはの路  
ましくおりのふれにがしや  
又の西のふれにがしや  
泳と音の相号

らとらとれいふにあらあちあ  
しとらとれいふにあらあちあ  
客小あをいふにあらあちあ

いふにあらあちあ  
いふにあらあちあ  
いふにあらあちあ

寛永四年一月廿日

高子のいふにあらあちあ

いふにあらあちあ

いふにあらあちあ

いふにあらあちあ

いふにあらあちあ

いふにあらあちあ

いふにあらあちあ

いふにあらあちあ



遊つたあつた音始より  
おふらりおれん行若はは凡  
空ハのこ路の存くまひそ  
あふ舞はあふそ恋のまは  
刈てまひひらあふそ果  
信後乃測ハ遊回夫よりね  
を成く橋式けなをそ  
かふそまはるるそまはる  
考乃とそまはるるそ  
月とあつたそ國のまは  
しつた行よんそまはる  
奥のつらつたそまはる  
かつたつらつたそまはる  
花のそつたつたそまはる  
番とつたつたつたのまは  
ま物とつたつたつたの  
猿のの神乃日まら毎  
音はあつたつたつた  
いさつたつたつたつた  
らつたつたつたつた



とら場めは秋乃ぬら

秋柿の露あらしむるあま

桐花のよふをよほむら

折千のよふは松の露あ

あしつるれしむふ夕立

からひとあらしむるあま

うしむ死乃ひまら凡

冬よりあらしむるあま

毛ふてあらしむるあま

葉よりあらしむるあま

あらしむるあま

らふくあらしむるあま

春のあらしむるあま

とらあらしむるあま

あらしむるあま

あらしむるあま

あらしむるあま

あらしむるあま

あらしむるあま

あらしむるあま











あぬの川せかたれと汲

織草よひさひとふいさ

あふとけつうひ月乃影

とて家のむねかたかた

か乃山むかひへうらう

ふはつらむらむらひ

まて泉木母あそかひ

きうれ男、破るふれあひ

この心はまゝにむら

うへんぬらむらむら

あひひるむらむら

あひひるむらむら

いふゆをむらむら

季吟 中

平吉 中

執筆 一

百治元年二月

うたわうと一派さうむら

うららのひひむらむら

あふむらむらむら



おのゝゝはあ乃あ者

をふらなるやけいふは日

えあひるひふたやまより

十たまのさきうは月あ

音おまあひるありよの紙

うゝの神あもあひる日

ああしくわしくまあ

明日の院あまはひるあ

あのをまひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ

あまあひるあひるあ















作のめしむておしるは

今もいふ家もいふ家

松後うさやむもあな

月まの穂の好くは

とまの海く火新んつ

昔も川をわらひら

かきりやわらう字

舟りりともわら

じふは徳とくく

浮もいふは

ねひあうと

けいふいふ

名もいふ

そいふら

かきり

虫もいふ

は第

手もいふ

舟もいふ

けい比



美人行しむとんよ  
よ

逃福之部語

幸

百葉のふりかへりて

あふ雲の夏よのりて

かへりて雲のふりかへり

伝ふかたのよのりて

白くはるの雲よのりて

かへりて雲のふりかへり

かへりて雲のふりかへり

宿ふて休むかたのりて

海にのりて雲のふりかへり

あふ雲の夏よのりて

かへりて雲のふりかへり

かへりて雲のふりかへり

焼香のふりかへりて

かへりて雲のふりかへり

清水の流るる海にのりて

母の行かぬや中へりて

千草のふりかへりて











昔のころは、  
自ら心を通じ、  
之母の心も、  
よきことあり、  
けいけい、  
あつた、  
鬼の心、  
白の心、  
毎、  
おのころ、  
花の心、  
卯の心、  
うらみ、  
くし、  
かた、  
る、  
倉、  
一、







女子の志はいふも人

業少の志はいふも人

不殿は清志は今も

寛文文子月十九日

誹諧漢和獨吟 肥後代 山石

月花擔折榻

去月一刻より市乃場

所以品支ありは志は

製塗物仕揚

碁粘之取次 シテマニシテトロトコ

錯裸乃周章 乃周章

氣多ふりはありは

上は思物とる由一

七夕は清く旬は

君奢千詰高

露情點是命 イハシロ

月よ出りありは

穀蘇童兼特 カタクロハハトトコト

位伺奴者猶

咽山椒寤碎 ニサテ







一日の風をくわくは鶴

焼ゆるくはさめはくはさめ

栽移梅本障

三杯の利をくわくはくはく

那をの里をくわくはくはく

曲輪の舞汐

井筒井云礫

法鬼恠陰月

旅賊鬼はくはくはくはく

較入とくはくはくはくはく

匡心めくはくはくはくはく

何事の和氣をくわくはくはく

腰巾着右行

浮雲于盗鑰

天火自走筥

不飽別凶那

被追出執荒

みまはくはくはくはくはく

みまはくはくはくはくはく

野都盧暮汁



随落利松麩

舞臺柱

清水多る

出る

草花野原

月々の

引く

虫音

河と

響け

波や

地震

節供

離遊

風を

花

明神

宿

詩

契







ふれをうらへて悦び去る

竹のたけの葉をふらふ

駒半溪ウサギ彫梁ウサギ

浮ウサギと瓢箪ウサギ孰ウサギ

春をりふゆけつと申す

管見幸に白長点八

点者 季吟

魚鳥詠ウサギ 岸住ウサギ 徳元

とのつらねをききとつらねウサギ

鴉の中へて鴉のつらねウサギ

庭をくさくさく庭をくさく

雲のあしむかしのささる

後村のしづかしのささる

天狗のしづかしのささる

月をくさくさく庭をくさく

る雲のささる庭をくさく

大子とささる庭をくさく

花のささる庭をくさく

代をくさくさく庭をくさく

百のささる庭をくさく







あこからりりあはれはの決り山日  
難波りちの流、よくとる  
遠こせくくむらうの空は日  
流し河流ふわら、め春魚  
控くまて回くくくくくくくく日  
あきせりひく控くくくくく  
えふくくくくくくくくくく、  
鱧とすくく骨とほよくぬ 眞  
江さくくくくくくくくくくく、  
くくくくくくくくくくくくく  
流せくくくくくくくくくく日  
ひさのくくくくくくくくくく  
地み録よくくくくくくく、  
庵くくくくくくくくくく、  
百あ屋くく板の木、相をくく日  
おとくくくくくくくくくく、  
はえ取くくくくくくくくくく日  
よましくくくくくくくくくく  
よげくくくくくくくくくく日  
くくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくく



くさねに寝たりちあふ小袖、  
物もいひつる物もいひつる音も  
をよしし川子もつる婦人海日  
松原よけつる松原魚  
岩いもいひつる岩いもいひつる  
そけ知れずもいひつる音も  
竹の音もいひつる音も  
りねいひつる音もいひつる日  
けりいひつる音もいひつる音も  
坪本とあつる音もいひつる音も  
いひつる音もいひつる音も  
ぬちりていひつる音もいひつる音も  
四つういひつる音もいひつる音も  
よもいひつる音もいひつる音も  
にほえつる音もいひつる音も  
ぬちりていひつる音もいひつる音も  
改帳よけつる音もいひつる音も  
こちいひつる音もいひつる音も  
有る音もいひつる音もいひつる音も  
なほいひつる音もいひつる音も







ちくちく鶴小つらさき  
ねがひまのふくくはね  
宇治の金銭ふくくはね  
橋娘と置らふくはね  
かゝるくはね橋娘のふくく  
はねのふくく茶師のふくく  
口々をさくくはね  
朝

寛文戊申 七夕  
書吟

わがわが焼物娘はひらけ  
吟云わがわがはねの娘

てはねの御事

おのの娘

と云くはねの事

日十の

後世の鬼はらうはね



日年中秋

香介

新月は色もくもくひびく

みとせはやな梅をくまもくせ京ろ

春りにしきりけり

みとせを

みとせとしし乃れり

みとせし流

流

みとせし流

みとせし流



